

府養研ニュース

平成19年10月1日発行
大阪府養護教育研究会
会長 坂ノ上 泰博
(摂津市立第三中学校)

11月号の発行予定日は
11月5日。

ホームページもご覧ください。<http://fuyouken.visithp.jp/>

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて
件名に「府養研問合せ」など「府養研」を入れてください。

jimukyoku07@fuyouken.visithp.jp

アドレスをテキストで載せるとスパムメールが多数届いてしまうので、画像で張り付けてあります。
お手数ですが、手入力をお願いします。

秋季教育講演会 来週開催 **10月6日(土)**

テーマ:ICF(国際生活機能分類)の概要と教育への活用の実際

1. 日時:2007年10月6日(土)10:00~16:30(受付9:30~)

2. 会場:高槻現代劇場

基調講演(10:00~12:00)

演題 ICF(国際生活機能分類)の概要と教育への活用動向

講師 徳永亜希雄氏(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所主任研究員)

分科会(13:30~16:30)

分科会 1:子ども理解のためのICF

分科会 2:特別支援学校のセンター的機能発揮のためのICF

— ICF 関連図を使ってみよう —

分科会 3:ICF と評価

— 指導前後の評価。本人・家族・多職種間連携のために —

ICFってなんだろう？

徳永先生をはじめとして講師陣が、作成されているリーフレット添付しました。

ICF(国際生活機能分類:International Classification of Functioning, Disability and Health)は、昨年9月の中央教育審議会教育課程部会 特別支援教育専門部会報告において、「ICF(国際生活機能分類)の考え方は、社会参加という視点を重視しており、障害のある幼児児童生徒の指導目標の設定、関係機関等の連携による支援、障害の理解等を進める上で有効であることから、特別支援学校の教育課程編成における配慮すべきことの一つとして明示することなどについて検討する。」と述べられ、その活用について、検討を重ねられてきています。

今後、ICFの教育への活用を考えていくことがより重要となってきます。この機会に是非秋季教育講演会に参加いただき、研修していただければと考えております。

当日参加も可能です。是非多数の方々の参加をお待ちしております。

なお、分科会1と3に参加される方で、「ICF 国際生活分類—国際障害分類改訂版—」(中央法規出版発行)をお持ちの方は、ご持参下さい。

施設見学研修会報告 大阪府立たまがわ高等支援学校 平成19年8月23日(木)

報告・アンケートがまとまりましたので、ご覧ください。

別紙添付

府養研冬季教育講演会 (予告です 詳細、案内は11月号をお待ち下さい。)

教育講演会とコンサート

2008年1月26日(土)10:00~16:30(受付9:30) たかつガーデン 8階多目的室「たかつ」

第一部 教育講演会 野尻千穂子さん 著書「今、命輝いて」「愛はばたいて」他

こころの歌コンサート リピート山中さん アルパム「地球のうた」「家族のうた」他

第二部 教育講演会 上甲 晃さん 著書「志のみ持参」「志高く生きる」他

参加費無料

1. 特別支援教育研究開発校 五領小学校の最終報告案内

12月6日(木)10:45~17:00

10:45~11:30 公開授業 五領小学校にて

13:30~17:00 全体会 高槻現代劇場中ホール

参加費1000円 <http://www.takatsuki-osk.ed.jp/goryosyo/>

2. 教育支援ソフト紹介

以前にもご紹介いたしましたが、交野養護学校の近藤先生の教育支援ソフト、新作が公開されていますので、再度紹介させていただきます。

<http://flashed-soft.cocolog-nifty.com/>

「ビジュアル九九」(説明)聴覚的記憶に弱さがある生徒さんにとって、昔ながらの九九の覚え方「ににんがし」「にさんがろく」……で九九を覚えるのはつらいのではないかと、気になっていました。今回、作った教育支援ソフト「ビジュアル九九」は、視覚的に九九を覚えられるように作ったソフトです。

3. ATACカンファレンス2007の案内 http://www.e-at.org/atac/2007_12/index.html

2007年11月30日(金)~12月2日(日)

11月30日(金)プリカンファレンス

12月1日(土)メインカンファレンス

12月2日(日)メインカンファレンス

京都市勧業館「みやこメッセ」[\[http://www.miyakomesse.jp/\]](http://www.miyakomesse.jp/)

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9-1

4. NPO法人 チットチャットの紹介

<http://www.npo-chitchat.com/>

障害者(児)の社会参加と高齢者の介護予防を目的としたスポーツやイベントなど

平成 19 年（2007 年）9 月 3 日

大阪府養護教育研究会会員 様
特別支援教育関係者 様

大阪府養護教育研究会
会 長 坂ノ上 泰博

大阪府養護教育研究会秋季教育講演会（二次案内）

ICF（国際生活機能分類）の概要と教育への活用の実際

ICF（国際生活機能分類：International Classification of Functioning, Disability and Health）は、人間の生活機能と障害の分類法として、2001 年 5 月、世界保健機関（WHO）総会において採択されました。その特徴は、これまでの WHO 国際障害分類（ICIDH）がマイナス面を分類するという考え方が中心であったのに対し、ICF は、生活機能というプラス面からみるように視点を転換し、さらに環境因子等の観点を加えたことにあります。この ICF を教育においても活用することにより、子どもたちの理解や豊かな支援を進めていける可能性があります。

今回、ICF の教育への活用の研究を重ねておられています、徳永亜希雄氏をはじめ、共に研究をされている方々に来ていただいて、教育講演会を開催します。

多数の方々の参加をお待ちしております

記

1. 日時 2007 年 10 月 6 日（土）10：00～16：30（受付 9：30～）

2. 会場 高槻現代劇場
高槻市野見町 2-33
HP：http://www.city.takatsuki.osaka.jp/bunka/theater/cs/
阪急京都線「高槻市」駅南へ約 500m
JR 東海道本線「高槻」駅南へ約 1km

3. 内容

基調講演（10：00～12：00）

演題 ICF（国際生活機能分類）の概要と教育への活用動向

講師 徳永亜希雄氏

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所主任研究員

会場 高槻現代劇場文化ホール レセプションルーム（3F）

概要 ICF から障害をどうとらえるか、ICF と特別支援教育、を盛り込み、今後の教育での取り組みに向けて述べていただきます

分科会（13：30～16：30）

分科会 1 子ども理解のための ICF

講師 高山恵子氏（NPO 法人えじそんくらぶ代表）
大久保直子氏（筑波大学附属久里浜特別支援学校教諭）

会場 高槻現代劇場文化ホール 展示室（2F）

概要 子ども理解に視点をおき、必要な支援や適切な指導を行うためのもととなる子どもの状態像を ICF を使って理解するための話とワークを行います。
分科会前半は、ICF と子ども理解という内容で発達障害のある子どもの支援に携わる高山氏に話をさせていただきます。後半は、高山氏のインタビューの紹介とそれを用いた実習、及び大久保氏の関連図作成マニュアルに従った関連図作成実習を行います。

分科会 2 特別支援学校のセンター的機能発揮のための ICF

— ICF 関連図を使ってみよう —

講師 齊藤博之氏（山形県立上山高等養護学校教諭）
遠直美氏（三重県立草の実特別支援学校教諭）
宮岸尚平氏（北海道函館養護学校教諭）

会場 高槻現代劇場市民会館 305 号室（3F）

概要 特別支援学校のセンター的機能に視点をおき、コーディネーター・多職種間・地域支援における ICF 活用実践例報告と ICF 関連図作成ワークを行います。その際に、ICF の理念は通常の教育にも活用できることについても触れていただきます。

分科会 3 ICF と評価

— 指導前後の評価。本人・家族・多職種間連携のために —

講師 徳永亜希雄氏（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）
下尾直子氏（日本女子大学大学院）

会場 高槻現代劇場市民会館 207 号室（2F）

概要 ICF の項目は、評価点を用いることにより、指導前後の評価や、あらゆる利用者間の共通言語として用いることができます。その特性に基づいた取り組みについて紹介と体験的な学習を行います。

4. 参加費 無料

5. 定員 分科会 1・分科会 2：100 名、分科会 3：65 名（先着順）
参加していただけない場合のみご連絡いたします
また、申し込み状況は、HP にてお知らせいたします。
<http://fuyouken.visithp.jp/kenkyukai/icf07.htm>

6. 申し込み 下記項目を明記の上、Fax または Mail にて、お申し込み下さい
件名「府養研秋季教育講演会申し込み」
1) お名前・2) お名前の読み（参加者名簿の五十音整理のため）
3) 所属・4) 連絡先（Mail または Fax）
5) 基調講演参加の有無・6) 参加分科会

Fax 土井徳生（八尾市立南山本小学校）072-999-3482
文末の申し込み用紙をご利用下さい

Mail 下記ページより、必要事項ご記入の上お申し込み下さい
府養研 Hp>秋季教育講演会>申し込み
<http://fuyouken.visithp.jp/postmailcf/postmail.html>

7. 問合せ

件名「府養研講演会問合せ」とし、できればメールでお願いします。
高槻市立芥川小学校 田村真一（大阪府養護教育研究会書記）
Mail : jimukyoku07*fuyouken.visithp.jp
（※を@に変更して下さい：申し込みとはことなります）
Fax : 072-682-1407

8. 備考

- 参加いただける場合、申し込み受領等の連絡はいたしませんので、連絡なき場合は、会場においで下さい。

参考 HP

※「国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－」（日本語版）の厚生労働省ホームページ掲載について
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>
※徳永亜希雄氏の紹介（国立特別支援教育総合研究所 HP より）
http://www.nise.go.jp/blog/2005/03/post_59.html
※ICF 児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究（国立特別支援教育総合研究所 HP より）
http://www.nise.go.jp/blog/2006/06/icf_1.html
※ICF-CY Japan Network
<http://www.icfcy-jpn.org/wp/>
※ICF を考える？ICF で考える？？
<http://yaplog.jp/icfasianetwork/>

-----切り取り線-----

大阪府養護教育研究会秋季講演会申し込み

八尾市立南山本小学校 土井徳生 行
FAX : 072-999-3482

氏名		読み	
所属			
連絡先	(Mail または Fax)		
基調講演	参加／不参加	分科会	1／2／3
連絡			

最近よく聞く、

ICFって何だろう??

ICFは、人の健康に関係する状況を表すための標準的な概念的・言語的枠組みとして開発された、WHO(世界保健機関)の国際分類の一つです(2001年採択)。ICFとは、International Classification of Functioning, Disability and Health の頭文字をとったもので、日本語では、「国際生活機能分類」と訳されています。

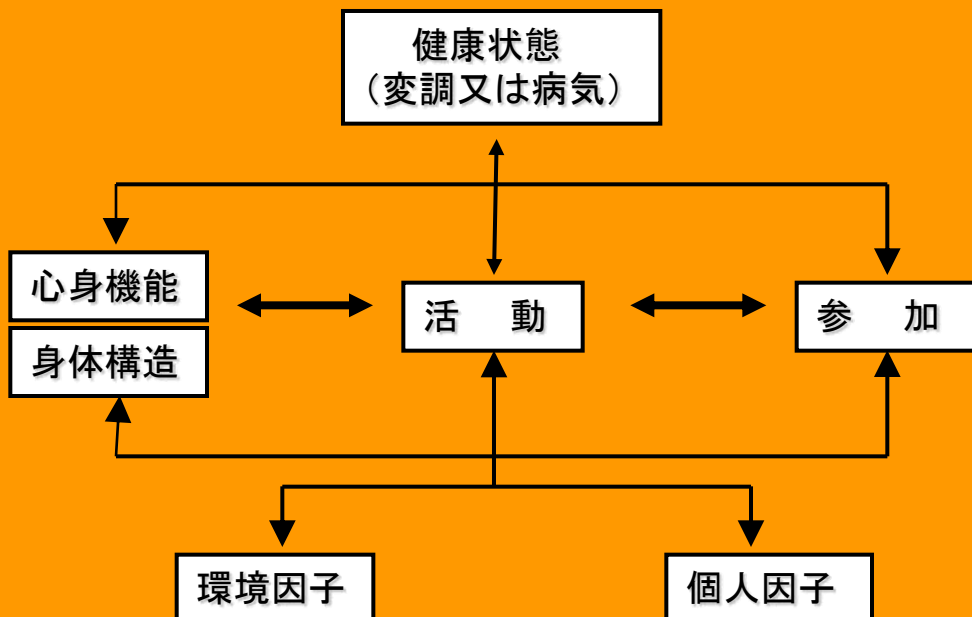
日本語版の概要は、下記の厚生労働省のページで見ることができます。

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>

具体的な中身は?

人の生活は、「健康状態」、「心身機能」、「身体構造」、「活動と参加」、「環境因子」、「個人因子」という要素(合計1424項目)が次の図のように相互に作用しながら成り立っているものとして捉え、これらの項目を用いて個々の状況を表します。

この考え方のもとでは、例えば、ADHDという診断を受けた子どもが学校の授業への取り組み(←「参加」)がうまくできない場合、「この子はADHD(←「健康状態」)だから...」と一方向的に判断するのではなく、「授業という『参加』がうまくいかないのは、どんな要素が影響し合っているのかな?」と多面的に捉えることができます。



(裏面へ続く)

どのように活用されているの？

子どもに関していえば、表の頁にある概念図を参考にしながら子どもの様子を理解し、併せて支援策を考える取り組みなどが報告されています(「ICF活用の取り組み」ジアース教育新社等)。多面的な子どもへの理解、多職種・家族等の間での共通理解等への活用による効果が報告される一方で、さらに本人の気持ちの部分(←現在、WHOの研究グループが「主観的側面」として検討しています。)を取り入れる必要性や、概念だけでなくもっと項目を活用すべき、等の声もあります。

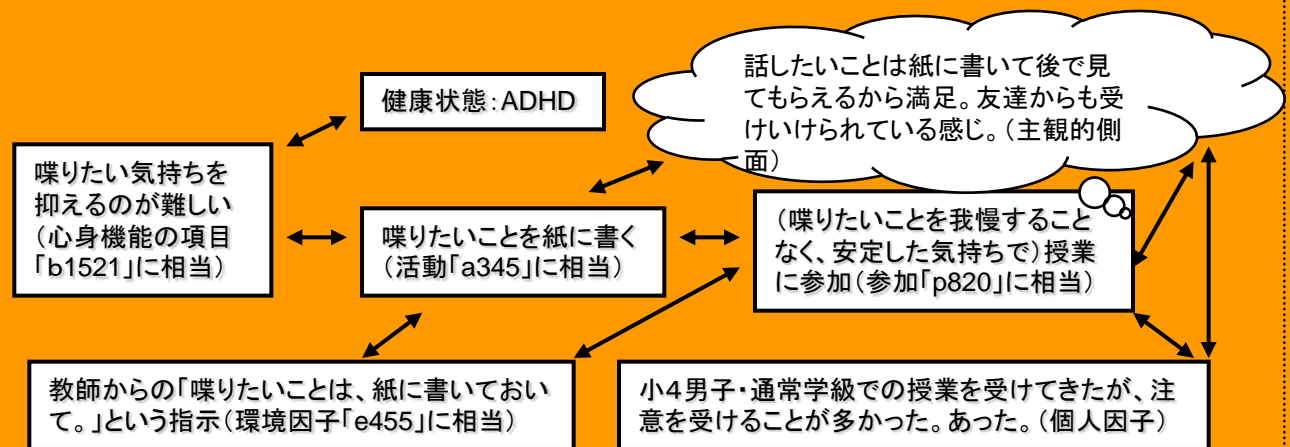
また、子ども向けのICFとして、ICF version for Children and Youth (ICF-CY, 児童青年期版(仮訳))がWHOの関係会議で2006年に承認されています。

ケースへの具体的な活用例

(高山恵子・品川裕香「気になる子がぐんぐん伸びる授業」小学館 内のケース例を改編)

例えば、授業中、静かにしなければいけないのに、ぺらぺらと喋り続け、そのことでクラスの友達から煙たがられていることを自分でも気づいても、話さずにはいられないという特性があり、ADHDという診断を受けた子どもがいます。

その子どもがうまく授業に参加できるように、ICFの枠組みからは次のように考えられます。



国としての取り組みは？

「障害者基本計画(2002)」において、障害の理解や施策推進の観点からICFの活用法策を検討する旨が述べられ、担当省庁である厚生労働省においては、2006年に社会保障審議会に専門委員会を設け、ICFに関する諸課題について検討を進めています。

一方、教育の分野では、中央教育審議会の特別支援教育に関する専門部会において、次の学習指導要領とICFとの関係について議論され、また、国立特別支援教育総合研究所においては、ICF-CYに関する研究が行われています。

行事部主催 **施設見学研修**<8/23（木）実施>（報告）

今年度は、昨年度に引き続き、大阪府立たまがわ高等支援学校を研修先を選びました。たまがわ高等支援学校は、近鉄奈良線河内花園駅の北約1キロメートルに位置し、2006年4月より、旧府立玉川高等学校の再編整備の結果誕生した、「職業教育を柱とする、新しいタイプの学校であり、府民の熱い期待を担ったパイロット的な学校」（たまがわ高等支援学校ホームページより）です。本見学研修には、48名の応募を頂き、申し込んでいただいた方、全員に参加して頂くことができました。当日は、天候にも恵まれ、無事研修会を迎えることができました。

<たまがわ高等支援学校側からの概要説明>

学校に到着後、体験実習の前に、校長先生より学校の概略について、映像資料も交えながら説明して頂きました。また、体験実習終了後も参加者からの質問に答える形で学校の現状等について、追加の説明を頂きました。以下、それらの概要を紹介させていただきます。

今年度、募集人数48名に対して92名の受検がありました（昨年度は67名受検、府立枚岡樟風高等学校内の共生推進教室生2名は別枠募集）。検査内容は、各市町教育委員会を通じて各中学校、中等部に通知されていると思います。筆記検査、作業検査、面接が当日の受検の内容です。筆記検査は、日常生活の中で出てくる漢字の読み書き、形の弁別、時間割の時数を答えるもの、作文（「たまがわ高校」「健康」「仕事」の3語を使って、100字程度の作文をかくもの）、作業検査は、見本を見てブロックを組み立てたり、ボルト・ナットを組み合わせるもの等、面接は、自己申告書に添って、この高校を受検した動機等を聞き、面接官の言っていることに答えられているか、質問を理解しているか、入室の様子、面接官への対応等を見させてもらいました。

なお、適性検査の内容等については、各中学校に配布されている（府教委障害教育課より各市町教委宛に送付され、市町教委より各中学校に配布されている）「平成19年度大阪府立たまがわ高等支援学校入学者選抜における適性検査の問題について」等をご覧下さい。

現在在学している生徒たちは、20市2町から通学しており、1時間以上1時間30分未満の時間をかけて通学している生徒が55名、1時間30分以上かかる生徒が18名です。最も遠方の生徒は、箕面市や熊取町から通学しています。人数で最も多いのは東大阪市から39名、以下八尾市8名、柏原市7名、堺市7名、大東市5名、吹田市4名といったところです。

たまがわ高等支援学校の教育目標は「心豊かな人間の育成を図り、就労を通じた潤いのある社会的自立をめざす生徒を育成する」ことにあります。この目標を達成するため、3つの学科（「ものづくり科」「福祉・園芸科」「流通サービス科」）とそれぞれの学科に2つずつの専門分野（「ものづくり科」＝産業基礎分野と食品生産分野、「福祉・園芸科」＝福祉分野と園芸分野、「流通サービス科」＝オフィスサービス分野とバックヤードサービス分野）が設置されています。また、全員が学習する職業に関する共通の専門教科（清掃・後片付け、販

売）もあります。1週間の授業時数（合計30時間）の内訳は、これら職業に関する専門教科（学科別、11時間）と共通の専門教科（2時間）で合計13時間、他は一般教科の15時間と特別活動、道徳、自立活動の2時間です。いずれの専門教科においても就労への意欲を育てること、社会性を身に付けることを共通目標にしています。

入学時は一括募集ですので、3つの学科のうちどの学科に所属するかは、前期中にローテーションで3つの学科を全て経験したうえで、入学後半年たった時点で生徒・保護者へのアンケートを実施し、懇談等を通じて後期の中ごろまでには決定することになります。学科をいったん決めた後は、学科の変更は出来ません。

また、本校では就労を通じた社会的自立を目指す上で、実際の職場を体験することが極めて重要です。そのために夏休み中心に教職員が約350社を回って、体験先を確保した結果、1年生の秋から1週間の予定で職業体験実習を行うことになりました。2年生では、春と秋に様々な分野の職場体験実習を、2週間実施します。また3年生では、本人の就労希望を優先する形の職場体験実習を実施する予定です。

また、学校生活全体を通じて、日常生活能力の向上を目的として、タイムレコーダーの活用、宿泊研修用の食材購入や自炊の体験、クッキングコンテスト等を行っています。さらに、ソーシャルスキルの養成を目的として、校内でコンビニや喫茶店に見立てた場所を設定し、レジ打ちや店内での挨拶（「いらっしゃいませ」「有り難うございました」等）の練習を1年生のうちから実施しています。

現在、在学している生徒たちは、全員療育手帳を持っているのですが、中には身体に障害のある生徒（1名）や、高機能自閉症、学習障害の生徒も在籍しています。

一般教科の授業についてですが、授業プリント等には、必要に応じてルビを振っています。また、学力差が大きいため、1教科につき3段階の別プリントを用意し、教科によっては小学校1年～6年の内容のプリントを用意しています。養護学校中等部から進学された生徒は、英語をやっていないことがほとんどですが、本校では英語の授業も行っており、簡単な英会話や英語の歌詞をつけた歌等の授業から入るようにしています。

学校の概要について説明頂いた後、体験実習の前に、各学科の実習場所を、グループに分かれて見学させていただきました。その際、各学科の担当の先生から、学科の特色等について詳しく説明させていただきました。

続いて、6つのグループに分かれ（人数を均等にする必要があったため、行事部で事前にグループ分けさせていただきました）、食品生産（ものづくり科、1グループ）、オフィスサービス（流通サービス科、1グループ）、バックヤードサービス（流通サービス科、1グループ）、清掃実習（共通科目、3グループ）の実習をさせていただきました。

＜研修参加者の感想（一部）＞

以下、当日施設見学研修に参加していただいた方々の感想を、それぞれが参加されたグループ別に掲載させていただきます。なお、一部文言を変更させていただいた場合もありますが、ご了承下さい。

〔産業基礎グループ〕

・産業基礎のグループは、木工の実習として小物入れを制作しました。手順の説明もわかりやすく、しかも難しい部分は事前に作業を済ませてくれているので、簡単な作業のみで作ることができました。エアピンネイラーなど本格的な工具を使っただけの作業であり、先生の指示に従って正しく取り組めば、きれいな作品が出来上がるので、生徒たちにとっては、達成感を得られる作業となっているように感じました。体験実習の参加者も作業に集中し、楽しみながら小物を作成できました。作業しながら、自ずと協力しあう形になり、和やかな雰囲気でした。最後に、一人ひとりが好みの焼き印を押して完成させました。

・実際の作業では、8人の生徒に3人の教員で指導しているようで、安全に配慮すること、集中させて取り組ませること、機械や工具を使うための時間待ちなどのロスを作らないように工夫していること等、聞かせていただきました。

・学級に進学希望の生徒がいますので、進路見学のつもりで参加しましたが、実習がとても楽しく、かつ実践の為の参考になりました。準備なども大変だったと思いますが、お陰様で有意義な時間が持てました。時間が過ぎるのが、本当に早く、あっという間でした。有り難うございました。実習の希望が出せたら、もっといいのになあと思いました。1日（2種類午前午後）実習させていただいたら嬉しいです（大変だと思いますが）。共生教室のことも、もっと知りたいと思いました。

・産業基礎の体験実習をさせてもらいました。いろんな道具を使っての体験を通して子どもの作業が想像できました。少人数で作業を伴った学習が多いので達成感を感じる学びが多く、いいなあと思いました。府下に1校というのは残念ですので、是非増やして欲しいなと思います。

・木工作で「小物入れ」を作りました。初めて使う釘打ち、電動やすり等、どれも楽しく使わせてもらいました。徐々に作品が出来上がり、物を作る楽しみ、喜びが湧いてきて、顔がほころびました。下準備をして下さった、たまがわ高等支援学校の先生方に感謝致します。

・一度見学したかったので、（この見学研修に参加）できてよかったです。生徒のいない分、寂しかったですが、木工を体験して、生徒もこのように学習しているのだろうと想像できたことがよかったです。

・校舎見学の時、学校内がとてもきれいな事に気づきました。作業実習をさせて頂きましたが、初めて使用する道具など、生徒になった気持ちで楽しかったです。また、作品が仕上がるということの喜びを生徒の立場に立って体験すると、とても嬉しく感じられるものなのですね。米谷先生、鍋島先生、楽しい時間（授業）を有り難うございました。

・見学、実習をさせて頂いて思ったことは、卒業してすぐに働くことができるよう、学科ごとに細かく指導されているんだろうなあ、ということです。教科

書をわかりやすく手作りしたり、（ホテル等に体験入社して）ベッドメイキングを勉強したり等、先生方の必死さが伝わってきました。



〔食品産業グループ〕

・ジャム作りを体験させてもらいました。施設・設備とも新しく清潔で（生徒の実習は8名とのこと）作業しやすいと思いました。他の教室、実習室も見学しましたが、指導される先生方も、教材の選定・加工、それらの教材をどのように利用するのか等、様々なアイデアを必要とする点から見ても大変だと思います。就労をめざすということで、卒業生がどういう進路に進むのかが注目されるという意味でも先生方の大変さが想像されます。

・施設見学だけでなく、実際に生徒さんたちに指導されている内容で実習させていただき、ものづくり科の内容がよくわかりました。ご用意下さった先生方、本当に有り難うございました。設備が非常によく整っているのにも驚きましたが、実習材料などの費用や材料にご苦労なさっていることの一部もわかりました。実習をし、ものづくりをしていくには、それなりの費用がいることがよくわかりました。高等部、高等学校への進学を希望する生徒が増える中、高等支援学校が府下に一枚だけ（1学年48名）というのも少ないと思いました。通学時間がもっと短い場所（地域ごと）にできるといいですね。

・私は、食品産業実習を体験させて頂きました。設備も完備しており、感心しました。即、就労につながるわけではないと伺いましたが、このような体験は生徒達の将来を見通し、社会性を育てる素晴らしい経験だと思います。先生方の努力やご苦労を察しますが、自立をめざして頑張る子どもたちのために、私も小学校でしっかり支援していきたいと思います。

・最初のビデオで卒業生の元気な姿を見ることができ、学校の説明もよく分かりよかったです。ジャム作りの実習体験もとてもよかったです。学校で学んだことが就労につながっていくよう願っています。

・設備の整っていることにびっくりしました。同じ府立の養護学校なのに、いろんな面でかなりの違いがあると思います。この学校の規模だと、もっと入学定員を増やしても大丈夫なのではないかと思いました。

・本格的な実習設備が整っているのに驚きました。生徒達の特性に合った授業内容を、時代のニーズにも合わせて考えられていることに、大変感心しました。3年間学んだ生徒達は、すぐには思い通りの仕事につけなかったとしても、何らかの自信を得て卒業され、社会に出ていけると思います。保護者の方々の見学会もあれば紹介したいです。

・キウイジャム作りの体験をさせて頂きました。恵まれた施設・設備、工夫さ

れたカリキュラムで生徒達は3年間充実した学習に取り組めると思いました。このような学校が増えることを切に希望します。

・まず、校舎の隅々まで美しく磨き上げられているのに感心しました。食品産業（ジャム作り）コースの実習に参加させて頂きましたが、調理器具等の設備が立派なことに驚きました。生徒8人に指導者4人という行き届いた対応で、生徒達は丁寧な指導のもと、ゆったりとした環境の中で学んでいるのだと思いました。先生方の愛情を感じました。ただ、この学校で学んだ力が就労に結びつき、活かすことができるようにと願っています。また、府下にもっとこのような高等支援学校が設立されることを望みます。

[福祉グループ]

・同じ職場の人から、たまがわ高等支援学校の名前は聞いていたので、興味をもって今回参加させて頂きました。まず驚いたのは、設備が立派な事です。実習の福祉グループでは、臥床したままの状態でのシーツ、着衣、交換を体験しました。今までテレビなどで見たことはありますが、実際やってみると細かい配慮（言葉がけの大切さ）がいることが分かり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。実際今の職場で、すぐつながることではありませんが、将来、介護する立場になった時に参考にさせて頂きます。

・実社会にでて、すぐ使える力、即戦力になるカリキュラム、学習支援の方法（教材）の工夫等、とっても驚きました。今まで何度か高等部の見学をさせて頂きましたが、たまがわ高等支援学校は、社会で生きる（使える）学力、技術力、大きな課題であるコミュニケーション力についても、その学習がそのまま社会で生かせる、社会（仕事）でのニーズに合った教育内容（学習の場）を提供しようと創意工夫されている点で、実に素晴らしい学校です。再来年、卒業生が社会に出ます。その後の生徒の姿が楽しみです。卒業後も追指導がなされると思いますが、卒業生が不安になったとき、気軽に帰ってこれる学校として、又、社会人として一人立ちして歩める迄、支援できる学校であって欲しいと願います。

・生徒にとって社会に出てからの不安は大変なものだと思います。専門的に6分野に分かれての学習は、生徒達にとって、本当に箕のある3年間だと思います。意欲をもって働き、生きがいを見いだせるよう段階別に訓練し、社会に出ていることができるシステムは素晴らしいと思いました。実習体験をさせて頂くことで、日常の学習内容が生徒にとって有意義なものであることが実感できました。

・巡回相談などで回っていると、たまがわ高等支援学校への関心の高さが伺えます。そこで「是非実際に見て体験させて欲しいなあ」と思っていたので、とてもよい企画だと思います。実際に参加させて頂き、具体的な教育の内容を知ることができ、有意義でした。

・以前の校舎を改装してそのまま使うということだけでなく、施設・設備面も充実しており、就職した後も現場で活躍できるよう、工夫してカリキュラムを組んでおられることが分かりました。

・昨年度開設された高等支援学校に興味と期待があり、見学させていただきま

したが、専門分野に分かれての体験実習や見学、とても充実した内容で、よかったです。まだ卒業生がいないので就職率など現実的なことはわかりませんが、少しでも門戸が広がるようにと願います。

・施設面が整っていて、就労に向けて（社会へ出ることをに向けて）様々な工夫がなされていると思いました。先生方が大変熱心に取り組んでおられることが伺えました。見学だけでなく、体験実習をさせて頂いたことで、生徒さんが学んでいる内容、先生方の指導の工夫や思いを、より感じる事ができたと思います。



[オフィスサービスグループ]

・岸和田からでは遠いと思っていましたが、実際電車に乗って歩いてきますと、やはり遠かったです。学校現場を実際に訪れ、教育概要の説明、施設見学、体験実習をすることによって、たまがわ高等支援学校の大まかな部分がわかったと思います。就労に向けて、これだけの実践的な実習ができれば、大変素晴らしいことだと思いました。

・今回この施設見学研修に参加させて頂き、様々なことを知ることができたように思います。印象としては、全ての活動が、社会的自立を目指して徹底しているように思いました。設備も整っており、先生方の研修も充実しているように感じられたので、これから生徒さんが飛び立っていかれることを心からお祈り申し上げます。

・丁寧に多方面から説明いただき、学校の様子等よくわかりました。先生方のお話から、子供達の卒業後の進路に向けての熱意も伝わってきました。子供達を中学から送り出すには、教師自身も高校等の状況を知っておくことがとても重要なことだと思います。このような機会を設けていただくのは有り難いことです。

・施設見学では、担当の先生方に丁寧に説明していただき、有り難うございました。就労を目指して作られた学校ということで、専門分野（ものづくり科等）が11時間設定され、工夫された内容に感心するばかりでした。生徒達にとっては、人との関わりを持ち、コミュニケーションを学習するよい場が与えられているなと思いました。バックヤードサービス分野等で、技術を身に付け、是非就職できるようになって欲しいなあと同時に、たまがわ高等支援学校のような高校を増やしていけるよう私達も活動していきたいと思います。

・一度は見学させて頂きたいと思っておりましたので、今日来てさせて頂いて、有り難かったです。就労に向けての様々なスタイルの学習を準備され、また指導法を開拓されておられることが分かりました。来年度の3年生が、どのような進路に進んでいかれるのか、先生方のご奮闘にかかっているなと思いました。

夏休みのゆっくりした中での見学でよかったと思います。

・まず社会人として大切な事を学び、そして職業につくことができる技術や能力を育てるということで、個人の適性に合ったコースを選択し、学ぶことができるというのは、とても良い点だと思いました。パソコンで実習させてもらいましたが、大変丁寧に教えていただいて、生徒になったつもりで、大変勉強になりました。3年間学ぶことでかなり力がつくだろうと思いました。実習を大切にしているという点もいい所だと思います。

・最初のビデオは生徒の雰囲気がかめて良かったです。又、それに続く校長先生のプレゼンも良く分かりました。ざっと全体を見せていただいただけですが、器はできていてもカリキュラムを充実させるための予算はあまりなく、先生方の努力、工夫に負うところが大的のように感じました（木工、金工の材料、調理等）。たまがわ高等支援学校への保護者の関心は高く、今日の見学会は、保護者に対して具体的に説明するうえで、とても有意義でした。

[バックヤードサービスグループ]

・実習に先立っての校内見学では、一緒に回っていただいた先生から、タイムカードを導入している趣旨、清掃が全員の必修になっている意味等について詳しく説明して頂きました。その際に私たち参加者から様々な質問をさせてもらいましたが、その都度とても丁寧に答えていただき、実のある校内見学になりました。体験実習は、厨房にはいる前に生徒たちが必ず行っている手洗いに関するものでした。実習を通じて、私たちの場合は、手洗い一つとってもいかに不十分かを思い知らされました。バックヤードサービス分野では、衛生面での清潔さを保つことが、きわめて重要であるという点について説明頂いた後でしたので、就労を目指す生徒たちや指導される先生方の大変さが、実感として伝わってくる体験実習となりました。

・丁寧に学校が設立された趣旨（背景）、教育内容、教育課程を教えていただき、よく理解できました。卒業生の就職率が100%になる事を心から願っています。先生方の日頃のご苦労、ご努力が全ての面で感じる事ができました。

・貴重な体験をさせて頂きました。施設、設備も充実して、少人数できめ細かい指導がなされているのが素晴らしいと思いました。ここで得た技術や力を、即社会生活に生かされて、社会の一員として活躍していってくださることを願っています。

・今後の養護学校のあり方という点からも、今回の見学を楽しみに参加させて頂きました。「就労」という進路に向けての高等部3年間の教育課程をどう考えていかなければならないか、自立に向けての指導には何が必要かなど、明確な形で指導されていて大変参考になりました。

・この研修会を準備していただいた先生方、たまがわ高等支援学校の先生方、有り難うございました。学校の説明や実習もよく分かりました。ゆとりのある設備・教室にはうらやましく思いました。

・かなり整った設備があり、びっくりしました。この学校で基礎的なことを学んで就職すると、（現場で必要とされる技術等が）定着しやすいのかなあと感じました。少人数でもあり、丁寧な指導をされているなと感じました。今度は、

生徒さんたちが活動されているときにも見学させてもらいたいと思います。

・大変親切丁寧で、各先生方のこの学校にかける情熱を感じます。中学校へ帰り、生徒、保護者にも「こんないいところがありますよ」と伝えたいと思います。

〔清掃活動グループ〕

・職業教育としての「もの作り」の中に産業基礎と食品産業、福祉と園芸、流通サービスの中のオフィスサービスとバックヤードサービス等、それぞれ異なった分野が組み合わされており、たまがわ高等支援学校の特徴となっているようです。清掃が共通の分野となっているのは、なるほどと思えました。この学校の重要な特徴は、日常生活能力の向上と聞きました。タイムレコーダーの導入や公共交通機関の利用、宿泊行事での食材の購入、小旅行など、卒業後に役立つものと思えました。そして、ソーシャルスキルの養成ということで販売の授業が行われていることも将来に役立つと思えました。教育課程がしっかり出来ているという感じがしました。卒業後に社会に喜んで受け入れられるのではないかと思えました。

・見学だけでなく実際に体験させていただき、一つひとつの過程を丁寧に教えておられるのだと思えました。又、見学中目にした掲示物等から、私の予想より高いレベルの生徒が入学されているように感じました。今後、就労に向け、さらに関心が高まる学校であると思いますので、見学、体験できてよかったです。保護者へのアドバイスも多少は出来ると思います。

・現在担任している6年生の児童の保護者が、この学校も進路の選択肢のひとつとして考えておられるということで、見学に来させていただきました。少人数の生徒にととてもきめ細かい指導をされていることがよく分かりました。小学校とは違って、かなり仕事についてのことを意識されていることも分かりました。指示されたことを理解し、実行する力も個々の生徒によって大きく違うということで、色々のご苦労もあると思います。意欲的に仕事に取り組める生徒が1人でも多く育てて欲しいという思いで取り組んでおられるのだと思います。見学したことをまた伝えていきたいと思います。

・今日は有り難うございました。多くの実習を受け、社会での自立に向け頑張っている子供達の様子が目に浮かぶようでした。学力だけでなく、基礎からの実習が大切なことがよくわかりました。認知の力に差のある子供達にいろいろ工夫して実習されているのが分かりました。

・現在中学2年生の難聴と知的障害の重複の生徒が、今後の進路の選択肢の一つとしてどうかと思い、参加させて頂きました。各施設の整備や指導内容、進路保障等、スタート直後でまだまだ課題も多いかと思われませんが、草創の気概を持つ先生方の息吹が感じられる研修会でした。本日は有り難うございました。また、事務局の先生方、ご苦労様でした。

以上、今年度行事部主催の施設見学研修の報告とさせていただきます。府立たまがわ高等支援学校の先生方、当日はお忙しい中、府養研施設見学研修のためにお時間を割いていただき、本当に有り難うございました。末尾ながらお礼申し上げます。

文責 行事部 吉野 猛（箕面市立第二中学校）